

第42回民放労連全国女性の集い

ずんばい呑んで語りもんぞ

～タシヤ× in 鹿児島～

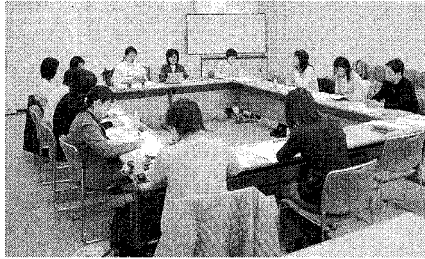
日程 2005年6月4(土)、5(日)
場所 鹿児島サンロイヤルホテル、みなみホール
(鹿児島中央駅から車で10分)
記念講演 下村健一さん
「市民とメディア」

各地連参加目標

Table with 2 columns: Region and Number of Participants. Includes entries for Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc., totaling 215 participants.

お問い合わせは労連本部まで
TEL 03-3355-0461

女性協拡大常任委員会開く
要求取り組みは多岐にわたる



活発な意見交換が行われた
加者はボランティアのフのい、ねいな弊に熱心に耳を傾け、理解を深めていた。
会議では、成果や現在の状況、年々激化する差別、各地連から、各地連も大いに刺激を受けた。
その他、6月4、5日に鹿児島で開催される「全国女性の集い」についても準備の状況や今後の課題について討議した。



女性協議会

3月12日、「女性と仕事の未来館」(東京)で女性協議会拡大常任委員会が開かれ、七地連(支部、労連本部)から総勢一四人が参加した。

会議に先立ち、会場となった「女性と仕事の未来館」(注)の常設展示「働く女性のあゆみ展」を見学した。明治以降、現在に至るまでの働く女性のあゆみが、模写写真などを使ってわかりやすく展示してあり、参加者は、様々な意見交換が行われた。また、九州地連の、地連全体として「総合職・特別職というコース別人事制度の撤廃」「産休の有給化」「産休・育児取得を理由とした定昇差別の撤廃」の三つを目標に奮闘を闘っている、という力強い発言に、各地連も大いに刺激を受けた。参考になったようであった。

報告がなされた。取り組みや要求内容は多岐にわたり、各地連とも数多くの課題を抱えている。
成果主義や新人事制度を導入する会社が増え、それにもない女性の働き方に悪影響がないよう、見直しを求める例や、育児休業明けに不利益な配置転換がおこなわれている例などがある。また、参加者から適切なアドバースや適切な働き方があり、大変活発な意見交換が行われた。



「働く女性のあゆみ展」を見学する参加者

設。
主な事業に、能力事業、相談事業、展示事業、情報事業、ライブ、交流事業、再就職センター開設事業があり、これらを展開することにより、女性たちが生き生きとした自分らしい働き方を實現できるようサポートしている。未来館スタッフによる案内の館内見学コースがあり、要望に応じて見学内容やスケジュールを設定してくれる。

備の状況や今後の課題について討議した。
最後に、仕事と家庭生活の両立を困難にするさまざまな課題を克服し、人間らしく働ける職場作りのためにも、4月から施行される「次世代育成支援対策推進法」の拡充を図り、実行ある活用を求めていることと意識を一致させ、会議を終了した。

「女性と仕事の未来館」
種々の困難に直面しつつ、働くことに意欲を持ち、新しい可能性を切り開いていくとする女性たちを、積極的に支援するための事業を総合的に展開するための拠点として設立された施設。

助女性労働協会 女性と仕事の未来館
〒108-0014
東京都港区芝5-35-3
TEL: 03-5444-4151 (代表)
TEL: 03-5444-4152